

令和元年度 第1回田原市まち・ひと・しごと創生連携会議 委員意見要旨 令和元年7月2日(火)開催

(3) 田原市まち・ひと・しごと創生関連事業（平成30年度）の効果検証について

1 雇用の創出・就労促進について

(1-1 創業支援)

- ・創業支援については、この数年、渥美商工会及び田原市商工会で、セミナーや創業計画作成支援を含め、かなりの数をこなしており、力を入れている。
- ・今までに比べ、女性の方が創業の意欲が高く相談に来る。今までになかったビジネスが、女性から生まれてくるという動きが顕著になってきた。
- ・田原市では金融機関と創業支援ネットワークを構築しており、連携がうまくまわり始めたところだが、廃業の数は多く、産業の大きな転換期のなかで、新しいビジネスが生まれてくるという意欲やチャンスを広げられるよう、これからも働きかけていきたい。

(1-1 創業支援)

- ・事業承継と創業意欲のある方のマッチングの話で、廃業はこれまで培ったノウハウ等を捨ててしまうことになるので非常にもったいない。全国的な課題だと思う。戦略が大事なので、次の計画のなかにも入れ込んでいければと思う。

(1-5 観光地域づくり)

- ・田原と渥美の観光のイメージは、メジャーな観光施設はないものの、住んでみて感じたこととして、首都圏では見ることのできないほど自然が豊かである。
- ・トウモロコシやメロン畑、春先はキャベツ畑、キャベツの花は首都圏の人はきっと見たことがない。このようなものを、巡り～なのような体験モノとして、大々的に世の中に発信することが必要だと思う。
- ・伊良湖という地名も、知られていないというのが実情。本当にいい所だと思うので、SNSを使っただけのPR、インスタ映えするスポットを各拠点に設けるなど、若い人が写真を撮りに来たいと思ってもらえると良いのではないかな。

(1-5 観光地域づくり)

- ・長く住んでいると見えなくなるものも多い。アクションプランの中にも観光資源の調査とあるように、そのようなものを見つけるには外からの「目」が大切なので、外に向けてアピールしていくことは重要である。
- ・尾張地域の人には東三河を知らない人も多く、特に尾張地域は名古屋のイメージが強い。東三河の潜在性は高く、観光においては重要な戦略となる。

(1-5 観光地域づくり)

- ・田原市は農業産出額が全国1位である。外国人のバイヤーの方が来て温室を見学したとき、温室の写真ではなく、温室の前に広がるキャベツ畑を背景に写真を撮っていた。
- ・我々にとって当たり前前の景色が、初めて見る方にとっては決して当たり前ではなく、興味の対象となる。いろいろなことを仕掛けるとよいのではないかな。

(1-5観光地域づくり)

- ・田原市の観光について、観光のメインは冬の菜の花、免々田川の菜の花さくら祭りなどで、時季に限りがあると思う。
- ・キャベツも年中はできないので、ヒマワリの種の代金を市から補助するなどして、市内でヒマワリが咲いているところが増えれば集客につながるのではないかと思う。

(1-5観光地域づくり)

- ・犬山市では駅から若い女性がたくさん歩いてくる。街並をきれいにして、SNS 映えするようなお店や、アピールの仕方を工夫したのだと思う。今では SNS のほうが早く拡散する。田原もやり次第で、観光資源をもっとアピールする方法があればと思う。

(1-6道の駅の高質化)

- ・道の駅田原めっくんはうすでは、6次産業の商品売上額の目標値を5年で1,000万円としている。1年目は準備期間で0円、去年が3年目で目標売上額200万円のところ250万円で、目標を達成している。今年は400万円を売上目標としているが順調に進んでいると思う。
- ・開発した商品は現在12品目あり、1カ月に1品目の割合で開発販売している。一番人気は「伊良湖黒牛カレー」で去年は約1,000箱も売れた。
- ・加工場では商品を平日3、4日かけて作っていることが多く、野菜が大量に入ったりすると土日にも稼働していることもある。一般の農家の方から野菜を使った商品開発の依頼もある。
- ・現在、設備の時間貸しの話を、専門家も入れて話し合っている。

(1-7サンテパークたはらの新たな魅力づくり)

- ・サンテパークはとてもいい環境で、場所もいいところにある。ドーム内でゲートボールの国体予選が行われたが、コートを作るにあたってドーム内では2面しか作れない。もう少し広げればという意見もある。
- ・田原市の施設は大きさ的にも内容的にも中途半端なものが多い。作り直すといっても多額の費用がかかるが、サンテパークはまわりに活用できる土地がある。今ある施設を有効活用していただければと思う。

2 定住・移住促進について

(2-1若者・臨海企業従事者の市内定着・定住促進)

- ・渥美半島から大学進学などで外に出て、農業に限らず戻ってくる確率が非常に低い。
- ・高校生の就職については、高校の推薦によって優秀な方が来るが、大学や専門学校の学生については二次募集をかけないとなかなか採用につながらない。パートの方も高齢化しており厳しい状況である。

(2-1若者・臨海企業従事者の市内定着・定住促進)

- ・定住・移住促進奨励金の対象年齢の上限45歳について、45歳を超えた方が田原に住むため家を建てる時に制度の利用ができないため、年齢についての考え方を考えることはないのか。

(2-1若者・臨海企業従事者の市内定着・定住促進)

- ・住みよさランキングで県内1位ということは本当にうれしく思う。
- ・若者からは、田原はスーパーや衣料品をそろえるところが少ない、商業がもう少し発展すると、豊橋の人も含めてもっと田原に住むのではないかという意見を多くもらう。そこは引き続き進められるとよいと思う。

(2-2サーファー等の移住促進)

- ・近漁をする場合、秋になるとサーフィンをやっているところまで漁の範囲になる。そこで、サーファーとの接触事故があった場合は、漁業者が100%悪くなってしまう。
- ・潮見坂から越戸地区までは共同漁業権、県知事の認可をとってやっている区域となる。サーフィン団体にも広報をして、漁業をしている時は、漁船が通り抜けるまではサーフィンをするのを遠慮してもらえればありがたいと思う。

(2-2サーファー等の移住促進)

- ・神戸ではサーファーの移住者の方も6戸ほどいて、地元の役などにも積極的に参加している。谷ノ口に移住した方も、地域とのコミュニケーションはしっかりとっている。
- ・漁業とサーファーとの課題の話があったが、谷ノ口で地引網をやる際には、事前にサーファーの団体と地引網を実施することについての協議をしている。

(2-3空き家活用推進)

- ・愛知県宅地建物取引業協会は、田原市と協力して年12回行うペースで無料相談を始めた。本年度3回やったが、1回の相談で4件くらいは来る。
- ・空き家については、田原市の建築課と協議書を交わし、対策を進めていく予定である。

(2-3空き家活用推進)

- ・空き家問題も各地区によって違う。耐震関係の問題もあり、地域住民の間でも問題となっている。空き家があるから貸せるという意見があるなかで、値段がどうしても高額になって貸すことができないこともある。

(2-4[3-4]ふるさと学習の充実)

- ・ふるさと学習で、地元の小中学生に地元の産業を体験させるとあるが、例えば鶏の卵がどうやってとれるのか分かっていない子もいると思うので、そのような体験ができればと思う。
- ・農業では田植えや稲刈り、牛乳ができるまでにはどういったことが行われているのか、漁業では海苔の作り方、商業では各店舗で仕事の手伝い、フラワーアレンジメントなど、他市ではできない体験が田原市にはいっぱいあると思う。子どもたちが様々な体験できる環境ができたらと思う。

3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望実現について

(3-4[2-4]ふるさと学習の充実)【再掲】

- ・ふるさと学習で、地元の小中学生に地元の産業を体験させるとあるが、例えば鶏の卵がどうやってとれるのか分かっていない子もいると思うので、そのような体験ができればと思う。
- ・農業であれば田植えや稲刈り、牛乳ができるまでにはどういったことが行われているのか、漁業では海苔の作り方、商業では各店舗で仕事の手伝い、フラワーアレンジメントなど、他市ではできない体験が田原市にはいっぱいあると思う。子どもたちが様々な体験できる環境ができたらと思う。

4 地域の魅力・住み良さの向上について

(4-1市街地の活性化)

- ・都市計画やコンパクトシティなどの都市計画の基本的な考え方を、市全体で共有するベースが第2期の総合戦略では大事になるのではないかと。

- ・田原市では商業者がものすごい勢いで減少している。まちなかはラグランの整備や中心市街地の整備を進めるなかで、都市の利便性を高め、コンパクトシティの入口を作っていると思う。ある程度の人口密度を維持しないと、都市の商業や利便施設が失われて、人口減少を止められないという状況である。
- ・コンパクトシティにするには利用権を制限していかないと進まないが、田原は市街地も比較的コンパクトで、コンパクトシティをベースにまちづくりの戦略を考えていけば、田原はまだ可能性があると思う。

(4-1市街地の活性化)

- ・福江市街地の再開発への地元住民の期待も大きい。伊良湖温泉の開発は嬉しく思っており、温泉ができれば集客力も上がり、宿泊する方も増えると思う。
- ・長時間かかるかもしれないが、温泉開発とまちづくりが一体となってもうまく進めば、渥美地区も再び賑やかになると思う。景気もよくなれば雇用も増える。

その他

- ・外国の方に田原に来てもらい、市民の方と交流する機会を提供してきたが、最近では田原に住んでいる研修生や、結婚して田原に住んでいる方たちとの共生について皆で一生懸命取り組んでいる。
- ・家から出ることがなかなかできない方が、日本語教室なら出てくることができるということで、一緒に話を聞いたり相談したり、同じように悩みを抱えている方の助けになるようにサポートしてきた。
- ・今は東南アジアの方が増えて、言葉も難しく交流もとりにくくなってきており、外国人同士でも文化の交流がとれない状況にあるので、情報の共有をさせていただければと思う。